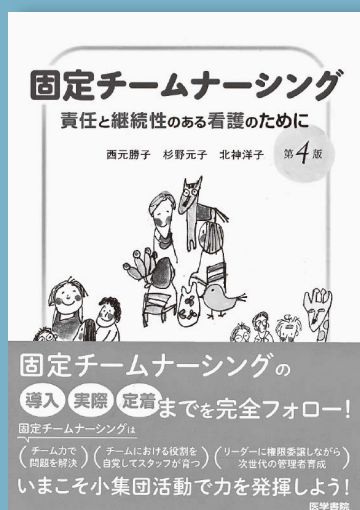


書評

固定チームナーシング

責任と継続性のある看護のために
第4版

- 著 西元勝子／杉野元子／北神洋子
- 定価 本体 2400 円＋税
- 判型 B 5
- 頁数 288
- 発行 医学書院

評者

東京医療保健大学医療保健学部看護学科
准教授

小澤知子

多くの課題が山積する今だからこそ
活用したい固定チームナーシング

固定チームナーシングは看護提供方式の1つです。その特徴は、チームという小集団をリソースとして、施設の理念・目標から看護部そして病棟の目標、さらにはチームの目標へと連関させながらPDCAサイクルを繰り返していくところです。このシステムは、看護実践者としての思考過程、そして看護管理者としてのマネジメントシステムと非常に似ており、とてもなじみがあります。

本書の冒頭では、初版（1999年）からこのたびの第4版までの序文が掲載されており、20年という時の中で、時代に応じて進化してきた固定チームナーシングへの著者の熱い思いに触れることができます。

看護実践力を高めるヒント

まず前半では、固定チームナーシングは、小集団活動を主軸に目標を設定し、各自がチームの一員となり、それぞれの役割を果たす中で、人を活かし、共に成長し、組織全体の看護実践力を高めていくシステムであることが解説されています。

特に、「ナースのリーダーシップ」をキーワードとして、現場の変革過程を示している項からは、導入に伴う迷いへの対応方法、スタッフへの支援や動機づけの方法を、また、固定チームナーシングで活用するチームワークシートを紹介する項からは、病棟運営に関する示唆を得ることができると思います。

また、所々で掲載されているコラムからは、固定チームナーシングのベースとなる理論や事例に対する考え方とその根拠を知ることができ、活用のヒントを得ることができます。

現在は、医療制度改革や働き方改革などの社会的ニーズ、ならびに、臨床現場の課題が山積しています。このような課題に対応する固定チームナーシングという道具を活用するためには、「5つの定義」を原則としながらも、状況に応じて使い方を工夫することで、期待する成果を得ることができると述べています。導入期は型を真似ることから開始しつつ、試行錯誤しながらやがて自部署に合った形に発展させていくことができる柔軟性と可能性を感じます。

多様なマネジメントのモデル

本書の後半では、固定チームナーシングを導入している施設・病棟のベストプラクティスが掲載されています。病院、介護施設、訪問看護ステーションなど多様な場における実際の展開事例、また、看護組織だけにとどまらず職種連携において小集団活動を活用した事例は、現場の実状に合わせて工夫したマネジメントのモデルとして、非常に参考になります。

本書は、固定チームナーシングを既に導入している施設では、運営の振り返りや評価に使用でき、また、導入していない施設においては、病棟マネジメントにおける新たな気づきを得ることができると思います。ぜひ、マネジャーやリーダーに読んでいただきたい1冊です。